

入選

山田 万琴(やまだ まこと) 浅川中 1年生

作品名:そして、バトンは渡されたを読んで

図書:そして、バトンは渡された

そして、バトンは渡された。私がこの本を選んだ理由は、この本が本屋大賞をとっていて、その他にもたくさんの賞をとっていたからです。

この本の主人公森宮優子は、幼い頃に母を失くし、それから父から梨花さんへ梨花さんから泉ヶ原さんへ泉ヶ原さんから森宮さんへと親が変わっていきました。

私は最初父親や、母親がたくさんいると、不幸そうな話だなと思ったが、優しく、心が温まる良い話でした。特に私が心に残っているところは、森宮さんが、梨花さんに言われた言葉で「自分の明日と、自分よりたくさんの可能性と未来を含んだ明日が、やってくるんだって、未来が二倍以上になることだよって。明日が二つにできるなんて、すごいと思わない?未来が倍になるなら絶対したいだろう。それってどこでもドア以来の発明だよな。しかも、ドラえもんは漫画で優子ちゃんは現実にいる」という言葉です。この言葉が心に残っています。

優子と私には共通点があります。それは、親が一人しかいないことです。私のお父さんとお母さんは私が小学五年生だったときに離婚してしまい、私はお母さんについていきました。それで、今まで毎日会っていたお父さんと、月に2回くらいしか会えなくなりました。最初はすごくさみしくて、お父さんと会える日をとても楽しみにしていました。けれどお母さんは毎日、お仕事に行き、帰ってきて、宿題を見てくれて、お風呂を洗って、ご飯を作ったの大変な事を毎日欠かさずやってくれました。仕事で帰るのがおそくなる日も、朝、早起きをして、夕ご飯を作り置きしてくれました。仕事が忙しくても、運動会や音楽祭などの行事に来てくれていました。お父さんも、仕事でつかれているはずなのに、会いに行ったら、必ずどこかへ連れていってくれて、ご飯を作ってくれました。それでも前のように、家族全員で、ご飯を食べる事や、どこかへ遊びに行く事が出来なくなるのは、とてもさびしかったです。それでも、私のことを、とても大事にしてくれました。家族だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の人、友達、先生などの色々な人が私の事

を大事にしてくれました。優子も親だけでなくたくさんの人に、愛され、助けられ、しあわせに生きてきました。そこが私と優子の似ている所かなと思いました。

この本を読んで、最初は心が温まるいいお話だなと思いました。しかし何回も何回も読む事で、優子と私の共通点や、優子や、私がたくさんの人に、助けられてきたのか、たくさんの人に大切にされていたのか、たくさんの人に出会ってきたのか、それがこの本を読んでよくわかりました。今の私がいるのは、たくさんの人が私をはげましてくれていたから、助けてくれたから、その思いを忘れずに生きていきたいと思います。そして私がしてもらった、たくさんの事を他の誰かにもしていきたいです。